

スマートエネルギーWeek 2019

スマートソーラー、蓄電池付き太陽光発電システムを展示 「スマートグリッドEXPO」東4ホールE29-38

スマートソーラーは、「スマートグリッドEXPO」において住宅向けの新開発の蓄電池付太陽光発電システムと独自のスマートシティ構想を展示する。同社はこれまで全国各地に自社発電所を含め累計230MWのメガソーラー発電所を開発し、更に拡大している。それには大規模蓄電池併設型発電所も複数ある。既に多くの学校・公民館・道の駅などの公共用施設で蓄電池付太陽光発電システムを開発・導入の推進を図ってきた。こうしたシステム開発の実績とコスト低減力により、家庭用でも大容量蓄電池システムを自社開発し、住宅向けに蓄電池付太陽光発電事業を拡大する。

太陽光発電産業は、地域の電力は地域で創る地産地消と住宅から民間企業まで太陽光発電による自家消費の時代へ移行し、スマート社会の実現に向かう。

スマートソーラーは、メガソーラー事業をはじめ、住宅における蓄電池付太陽光発電システムを提供するスマートハウス事業、地域における電力の地産地消を実現するスマートシティ事業、電力取引事業、O&M事業の5つの事業から成り立っている。

代表の手塚博文氏は京セラに入社後、技術開発部長を経て取締役事業部長、京セラソーラーコーポレーションの創業の代表取締役社長を務めた経歴を持つ。千葉県木更津市には技術研究所を構えるなど、単なる発電所の開発・建設・運営のみならず、太陽光発電のあらゆる商品の研究開発に力を注ぐ。

グローバルパートナーには、トリナ・ソーラーやファーウェイ、サムスン、ABB、サングロウ、SMAなどといった業界トップ企業が名を連ねる。

スマートエネルギーWeek2019内「スマートグリッドEXPO」にて展示するのは、研究開発中の蓄電池付太陽光発電システム。その特長は、屋根一体型構造のダブルガラス太陽電池パネルによって耐久性・耐候性を向上させ、30年保証太陽光発電パネル。さらに全負荷切替のハイブリッドPCS。蓄電システムは、4人家族の住宅が一日に消費する電力量を賄える12kWhの大容量システム。更に自社開発の人工知能(AI)を組み込んだホーム・エネルギー・マネジメント・システム(HEMS)を搭載している。それは、独自に展開している電力取引プラットフォーム



蓄電池とハイブリッドPCS

ムのバーチャル・パワー・プラント(VPP)にも対応する予定である。

スマートソーラーが目指すのは、住宅・公的施設・民間企業などあらゆる施設に蓄電池付太陽光発電システムを導入し、誰もが電力取引に参加できる電力プラットフォームとその電力による地産地消のスマート社会である。蓄電池付太陽光発電システム搭載の「スマートハウス」の普及はその第一歩、その地域に面的に拡大することでスマート社会となり、その地域の経済の活性化と持続可能な社会が実現して行く。

スマートソーラーは、高い技術力を持ち困難な課題に挑戦する太陽光発電のエキスパート企業として、これからも蓄電池付太陽光発電システムの面的普及拡大とその技術開発に取り組んでいく。

ブースの展示場所は東京ビッグサイト東4ホールE29-38。

MW	~1.5	2~4	6~8	10	12~16	18	21	34	2019年2月現在
完成済	6	15	1				1		■合計：229MW
建設中		1			2			2	★ 自社発電所：8カ所 (15.5MW)
開発準備中		3	1	1	1	1			◎ 出資発電所：11カ所 (138MW)

■ 23カ所 ■ 5カ所 ■ 7カ所 合計35カ所



国内メガソーラー実績 (2019年2月時点)